

## 令和元年度仙台空港航空事故対処総合訓練および東北ブロックDMAT参集訓練に参加しました（2019/10/10, 2019/11/2-3）

テーマ：災害医療、災害派遣医療チーム（DMAT）

会場：仙台空港（宮城県）および新潟市民病院（新潟県）

2019年10月10日に令和元年度仙台空港航空事故対処総合訓練が開催され、稲葉洋平助教（災害医学研究部門 災害放射線医学分野）が東北大学病院 DMAT の一員として参加しました。DMAT（Disaster Medical Assistance Team；災害派遣医療チーム）は、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期（おおむね 48 時間以内）に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームで、阪神淡路大震災を契機に設立されました。1チーム医師1名・看護師2名・業務調整員1名の計4名を基本単位とし、本部活動、広域医療搬送、病院支援、地域医療搬送、現場活動等を主な活動とします。

仙台空港航空事故対処総合訓練での訓練想定は、B737 機が飛行中に左エンジン停止、仙台空港に緊急着陸し、滑走路を逸脱、炎上。消火救難、医療救護の各活動について、情報の共有・連携を検証するものでした。その中で稲葉助教は、救護指揮所内でのロジスティクスとして DMAT の登録・管理やクロノロジーの作成を行いました。さらに消防との連携を密にし、搬送患者管理を円滑に進むように活動しました。

また 2019 年 11 月 2-3 日には、令和元年度東北ブロック DMAT 参集訓練が開催され、同じく東北大学病院 DMAT の一員として参加しました。新潟県沖を震源とする M8.0 クラスの地震（「長岡平野西縁断層帯」最大マグニチュード 8.0 を想定）に伴う大規模災害を想定し、東北ブロック各県 DMAT と関係機関との緊密な連携により被災地における緊急治療、病院支援、広域医療搬送等を迅速に行うことができるよう実践的訓練を実施するものでした。その中で稲葉助教は、新潟医療圏活動拠点本部（新潟市民病院）内での医療ニーズ班を担当しました。広域災害救急医療情報システム EMIS（Emergency Medical Information System）を駆使し、管下被災医療機関の情報収集を努めました。具体的には、EMIS 未入力病院や要支援病院を把握し今後必要となる医療ニーズ（患者や物資など）抽出を実践しました。さらにこれらの確保が円滑に進めるよう新潟県調整本部との連携を密に行いました。今後の実動に備えて今回の訓練で得た知識や技能を維持できるように日々の訓練に精進したいと思います。



東北大学病院 DMAT（仙台空港）



新潟医療圏活動拠点本部内

文責：稲葉洋平（災害医学研究部門）